



校報

# 水糸者

No. 1247

元年度・第106号

## 学習発表会で伝えたい「感謝」

学習発表会の  
スローガン

「最高」

㊦…最大限

㊩…一生懸命

㊨…心を繋いで

㊧…うれし涙

学習発表会が近づいて来ました。  
子ども達は児童会で決めたスローガンの達成を目指ししっかりと練習に励んでいます。

学習発表会が間近に迫ってきたといって、『突貫工事』的な練習を行うことはなく、予め割り当てされた練習日程に従い、集中して効率的に、友と議論しながら友と共に練習に励む姿から、今年度の成功も確信しています。

【『本番』間近でも、いつもと変わらない種小っ子の姿】



黙々と学習を行っている姿と全校合唱練習に励む子ども達。何かと慌ただしいこの時期にもかかわらず「心の安定」と「充実感」が伝わってきました。

230名の種小っ子は、今まで支えてくれた感謝の気持ちを、今年度耕し続けてきた心と体、頭が成長した姿で伝えようと、今日も練習に励んでいます。



1年生の練習風景と会場準備の手伝いを率先して行っていた6年生。

## 本校の発表に大きな拍手をいただきました



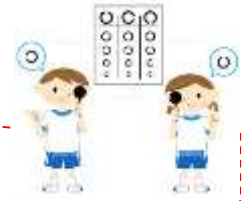
10月31日、11月1日に弘前市で開催された「第36回東北地区小学校特別活動研究協議会・青森大会」の中で、本校の教育実践を菊池沙織教諭（5年1組担任）が発表してきました。

助言者からは「どの子ども大事にしている学校だという事が伝わってきた。種小の実践を徹底的には真似をしましょう。」との、ありがたい講評もいただきました。

本校の「笑顔の追求」の実践に、東北6県から集まった多くの参観者からはたくさんの拍手をいただきました。涙を流しながら聴いていた参観者もいました！

# 「近視」を甘く考えないでください！

先日、子どもの健康について大変ショッキングな報道がありました。  
その概要は次のとおりです。



近視について慶応大学のグループが東京都内の小中学生 1400 人を対象に調べたところ、全体の 9 割近くが近視で、特に中学生の 1 割程度が、将来失明につながる病気を発症する危険性が高まる「強度近視」であることが分かりました。

慶応大学の研究グループは子どもの近視の実態を明らかにしようと、東京都内の一部の小中学校の児童と生徒合わせて 1416 人の目の状態を調べました。

その結果、近視だったのは、小学生 689 人のうちの 76.5%、中学生 727 人のうちの 94.9%で、特に中学生では、少なくとも 9.9%にあたる 72 人が「強度近視」でした。

「強度近視」になると、将来、網膜剥離や緑内障など、失明につながる病気を発症する危険性が高まるとされています。

慶応大学の坪田一男教授は「日本では子どもの近視に関するデータもほとんどないなど、対策は不十分だ。国のレベルで取り組むべき緊急の課題だ」と指摘しています。

最近の研究では、一日 2 時間、屋外で活動し、十分な量の光を浴びることで近視の発症を抑えられることが分かってきており、20 歳以下の 8 割が近視の台湾では、2013 年から体育の授業を 1 週間に 150 分屋外で行うことを義務づけ、ほかの教科も屋外での授業を推奨しています。

こうした取り組みで台湾全体では、7 年間で視力 0.8 未満の子どもが 5%以上減ったということです。

近視は子どもたちの屋外活動の減少に伴って増えているとされ、2050 年には、世界人口の半数に当たる 48 億人が近視に、9 億 4000 万人が強度近視になるという試算があり、WHO〔世界保健機関〕も深刻な懸念を示しています。  
〔一部NHKホームページより転用〕

この報道からも分かるように、「近視になってもメガネで矯正するから大丈夫」といったようなレベルではなく、眼の重大疾患や『失明』に至る恐ろしさを秘めている事に真剣に向き合い、対応する必要があります。

近年急増している「子どもの視力の低下」が外遊びの減少だけでなく、ゲームやスマホの使用時間（特に就寝前の使用）などに関連がかなり高いであろうという事は、容易に想像できることです。

いろんな研究が進むにつれ、ゲームの乱用などに代表される室内だけでの「五感」を使わない生活は、成長期の子ども達の頭と体、心を確実に蝕み、子どもの将来に深刻な影響を与える事がわかってきています。

本校では、日頃からスマホやゲーム機の乱用による「健康被害」や「犯罪被害」、「人間関係の悪化」などについては、繰り返し指導をしていますが、ぜひご家庭でもお子さんのスマホやゲーム機の使用実態を今一度確認し、「家庭のきまり」に沿った使い方をしているかどうかの確認をお願いいたします。



お子さんの使用実態を確認せずに「わが子やわが家は大丈夫」は、一番危険ですので、お子さんの使用実態の把握と「家庭のきまり」について話題にしてみてください。